

令和4年度富山県立大学入学式式辞

令和4年4月6日（水）

アルビス小杉総合体育センター

本日、ここに迎えた642名の新入生の皆さん、入学おめでとうございます。入学試験に合格し、今日の日を迎えられたことを心よりお喜び申し上げます。ご家族の皆様のお喜びもひとしおのことでしょう。

また、本日は、新田富山県知事をはじめ多くのご来賓の皆様をお迎えし、令和4年度富山県立大学の入学式を挙行できますことは誠に喜ばしく、教職員を代表し、関係の皆様方に、心より御礼を申し上げます。

皆さんは今日から大学生です。大学生になったらこんなことをしたいと、自らに期待をしてこの入学式に出席していることと思います。皆さんと同様に、私も皆さんに期待をしています。今日は、私の期待をお話いたします。

私は、先月、3月19日に挙行された富山県立大学の学位記授与式で、工学、工業の歴史について話題とし、未来は卒業・修了生の皆さんが作れるものだとエールを送りました。今日は、少し違った角度から歴史を見てみたいと思います。

日本の近代の工学、工業は軽工業から始まりました。代表的な例は、蚕の繭から生糸をつくり、輸出するというものでした。世界遺産になった群馬県の富岡製糸場で作られた生糸は、八王子を経由して、横浜港から輸出するというのが典型的なルートだったようです。蛇足ですが、富岡製糸場の跡を継いだ企業から、私は以前、研究用に繭を購入したことがありました。その繭を自宅に持ち帰り、食卓に置いて迎えたその翌朝、カイコガに羽化していて、家族から2度と持って帰らないでと、きつく言われたことを思い出します。軽工業が盛んであったころ、工学の多数の先人は、軽工業、繊維工業の仕事に従事しました。その後、製鉄を代表とする重工業、造船、電機、半導体、自動車、情報と、時代をけん引する巨大産業分野が現れました。私が学生するとき、横浜や長崎の造船所を見学したことがありますが、大きなドックで巨大な船を作っていたのはとても印象的でした。その後、現在では、横浜造船所の跡地は「横浜みなとみらい21」となり商業施設やオフィスなどに変貌しています。製薬や、看護の分野でも、それぞれの分野をけん引するものが、時とともに変わってきたのではないのでしょうか。

私がこのような歴史を例に挙げたのは、皆さんが、諸行無常の理（ことわり）の中で、自分自身がどのように成長したいか考えるきっかけにして欲しいという意図があるからです。諸行無常という言葉は、平家の没落を描いた平家物語の

冒頭「祇園精舎の鐘の声、諸行無常の響きあり」に現れる有名な仏教の言葉です。現代風にいうと、いろいろな物事はダイナミックに動いていて、留まってはくれない、ということだと私は理解しています。方丈記でも「よどみに浮ぶうたかたは、かつ消え、かつ結びて、久しくとどまりたるためしなし」とされています。

世が無常だとすると、先頭を走る人はどっちに向かえばよいか心配です。後から追いかけると常に先頭集団の進む方向に振り回されてしまい心配です。そうならば、自分自身が何を指せば納得し、あるいは、自分自身や家族や社会がより幸せになるために何が期待され、期待に応えるための方法や手段として何をすべきかを考え、行動すると、心が落ち着くのではないのでしょうか。自分自身の得意とするものを見つけ、磨き、その得意な土俵で相撲を取るとよいと思います。進むべき目標は遠大なものである必要は全くありません。でも、自分自身がぶれないように進んでいくために目標が必要です。目標達成は100%である必要は全くありません。60%でも40%でも満足感が得られるはずで

高校生であった皆さんにとって、大学に入学することが直近での目標だったと思いますが、実は、大学入学や、大学での高等教育、専門教育、さらには卒業後の就職は実は一生の目標ではなく、目標に到達するための手段でしかありません。もちろん、目標までの道の上にサブの目標をつくり、進んでいくことは重要ですが、先々のビジョンをしっかりと描くことをお勧めします。

最後に、学生生活を送るにあたって、ときどき、思い出して欲しいことを3つお話しします。

1つ目に、友人を作ってください。皆さんはこれから、授業やサークル活動で新しい友人に出会えます。最初は、教室にいる皆、知らない者同士ですが、お互いに友人を作ろうとしています。ちょっと話しかけると、すぐに友人ができるはずで

2つ目に、皆さんに背伸びをお願いします。これは、既に、保護者の皆様に、ビデオメッセージでお願いしたことはありませんが、新入生の皆さんとも共有します。大学生になると、しだいに日本や世界に、意識や活動範囲が広がり、ときとして、自分自身にできるのかと躊躇する場面があるかもしれません。そのと

き、保護者の皆様をお願いしたのは、やさしく皆さんの背中を押してあげてください、というものです。聞いた話ですが、ある家庭で、大学生の女性が短期留学に行きたくないと涙を流して親に訴えたそうです。親は背中を押して送り出し、その10年後、自分自身が大きく成長したのは短期留学のおかげだったと、その女性は親に感謝したそうです。みなさんは新たな経験を通して、力強く成長する力を持っています。その力を信じて、背伸びをしてください。

3つ目に、未踏の地を切り拓く気概を身に着けてください。大学での研究課題は、教科書やインターネットを探しても答えが見つかりません。大学の専門教育とは、これまで学んだものを基礎として、教員と共同して未解決課題に取り組むことにあります。ときに、道に迷って心細くなることもあるかもしれませんが、富山県立大学の教員は、未踏の頂を極めるために、正しい方向にガイドしてくれるので、安心してください。

結びとなりますが、富山県立大学に入学してよかった、成長が実感できたと、皆さんに思ってもらえるよう、教職員は、皆さんの成長を応援いたします。改めて、富山県立大学に入学する皆さん、本日はおめでとうございます。

令和4年4月6日

富山県立大学 学長 下山 勲